

Ⅲ 授業評価

1 授業評価実施について

主体的な学びと関連して、児童による授業評価を行った。評価項目は、授業改善の4＋4のチェックポイントと関連させ、児童と教師が同じ視点で授業を振り返られるようにした。

【実施方法】

- 研究授業の際には、必ず実施する。
 - ・ 教師は振り返りシートに記入する。児童には評価カードを配り、記入してもらう。
 - ・ 児童の評価カードについては、集計後(項目ごとに◎○△の人数を集計するのみ)、研究部で回収する。
- 算数科の授業において、授業評価を行う。(専科の先生は担当教科で)
 - ・ 10月・11月(2学期)、2月(3学期)に行う。
 - ・ 各月、授業評価を行う単元を決めて実施する。または、授業評価週間を設けるので、その週間に合わせて実施する。
 - ・ 評価シートには目を通し、サインをする。ノートに貼らせるなどして、児童にも振り返らせるようにする。
 - ・ 各月実施期間中の1時間のみ(どこの時間でも構わない)、集計をする。

【「授業改善の4＋4のチェックポイント」より個々の教師の授業に対するチェックポイント】

教師用

項目	評価
○ 子ども一人一人の理解度を1単位時間の授業の中で評価し、定着や習熟を図る時間が確保されているか？	
○ 指導内容が精選されており、テンポや間に配慮して授業をすすめているか。	
○ 授業内容は子どもの実態にマッチしているか？ (平均をやや下回る子どもも理解できる内容か)	
○ 教師の指示や発問は的確で、子どもに伝わっているか？(音量、話し方)	

児童用

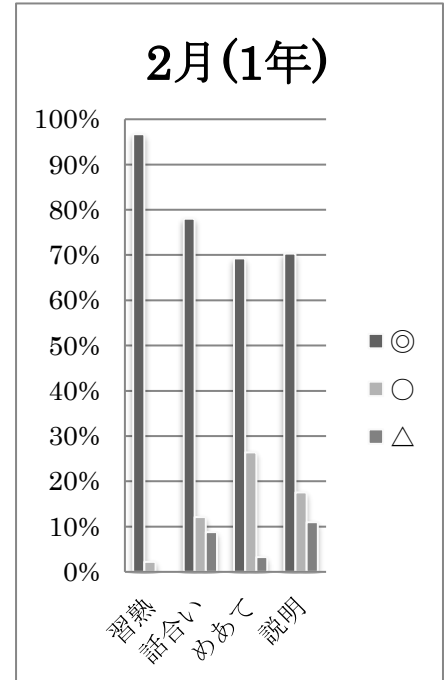
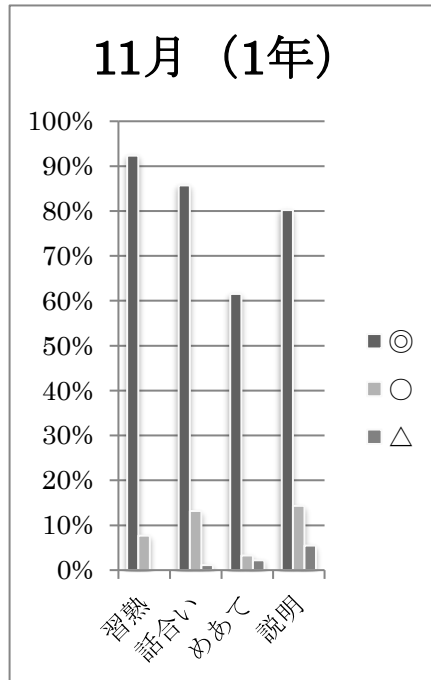
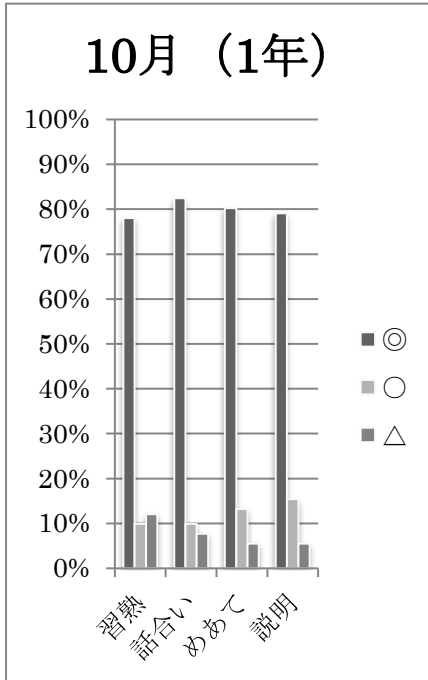
項目	評価
(算数) ○ 確かめの問題をじっくり解くことができましたか。	
(音楽) ○ 学んだことを確かめたり練習したりすることができましたか。	◎ ○ △
(道徳・学活・総合) ○ みんなで考えたことや決めたことを、じっくり確かめることができましたか。	
○ 自分で考えたり、友達との話合いに参加したりすることができましたか。	◎ ○ △
○ 学習のめあてを達成することができましたか。	◎ ○ △
○ 先生の説明は分かりやすいと思いましたか？	◎ ○ △
【振り返りコメント】 (授業で分かったこと、新しく気付いたり考えたりしたこと)	先生のサイン

2 算数科における児童による授業評価結果

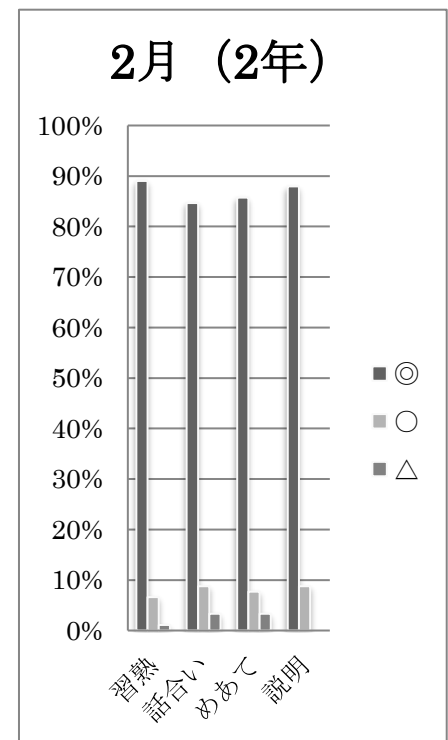
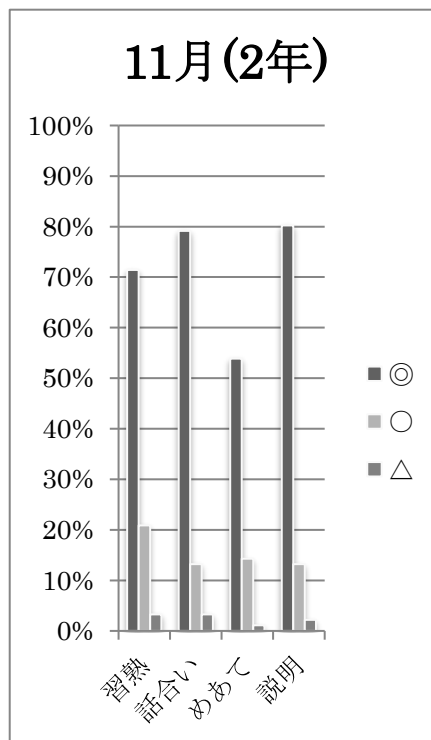
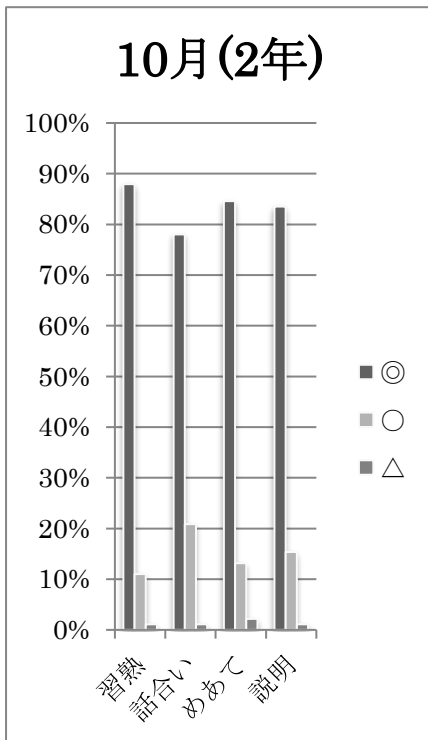
【評価項目】

習熟	確かめの問題を解くことができましたか。
話し合い	自分で考えたり、友達との話し合いに参加したりすることができましたか。
めあて	学習のめあてを解決することができましたか。
説明	先生の説明はよく分かりましたか。

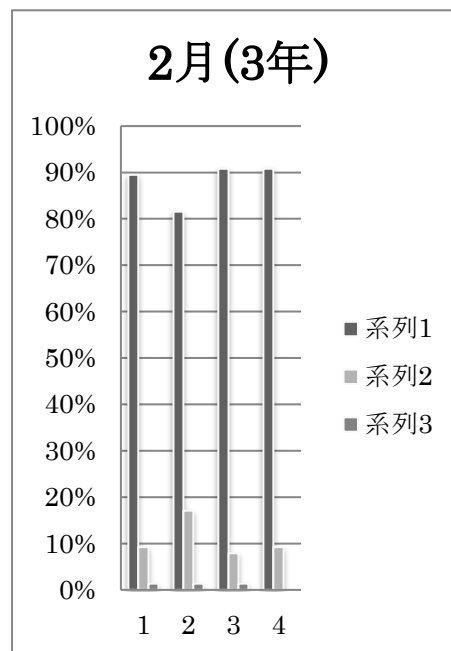
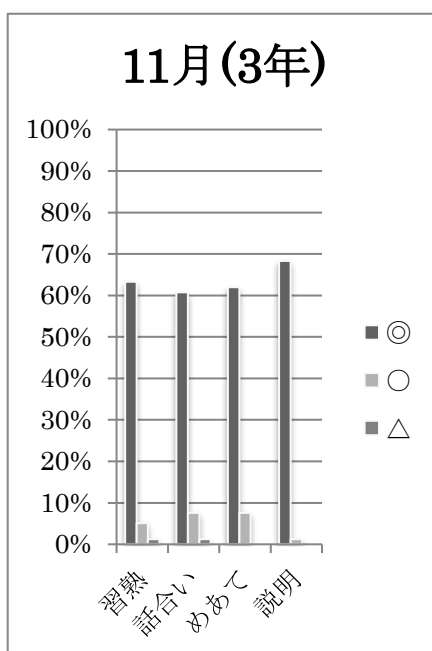
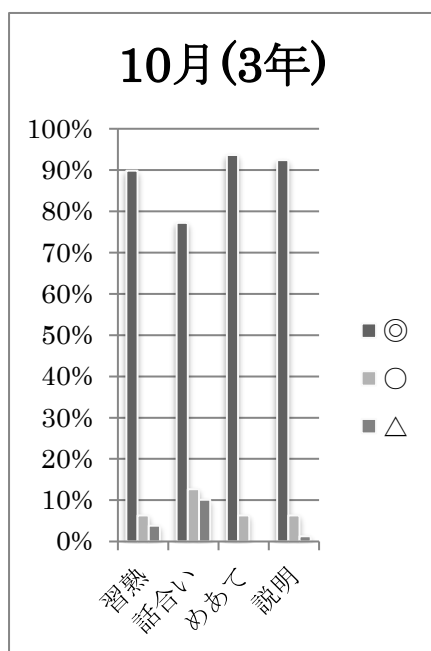
【1年】



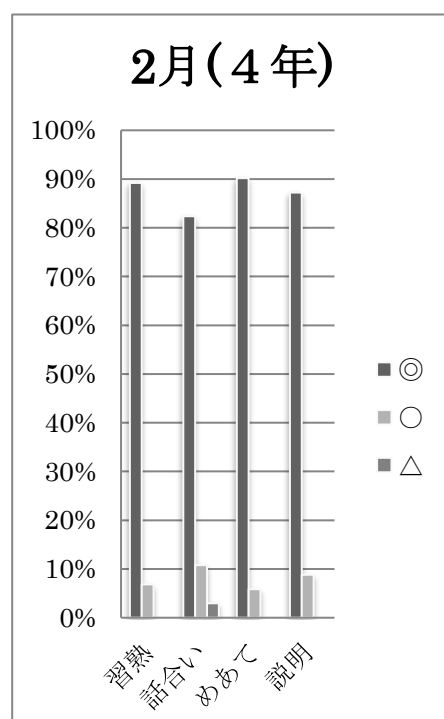
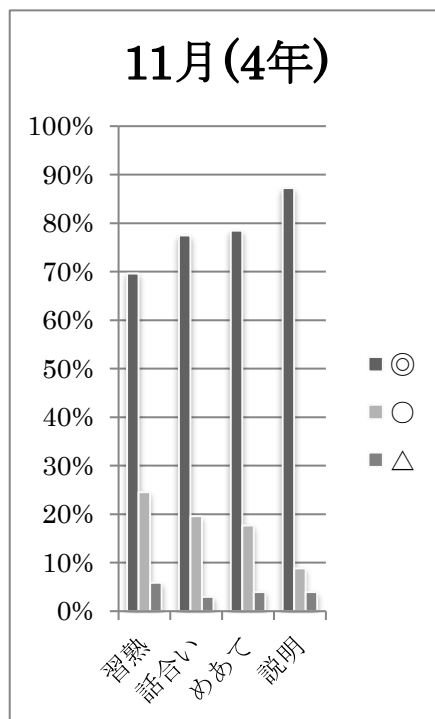
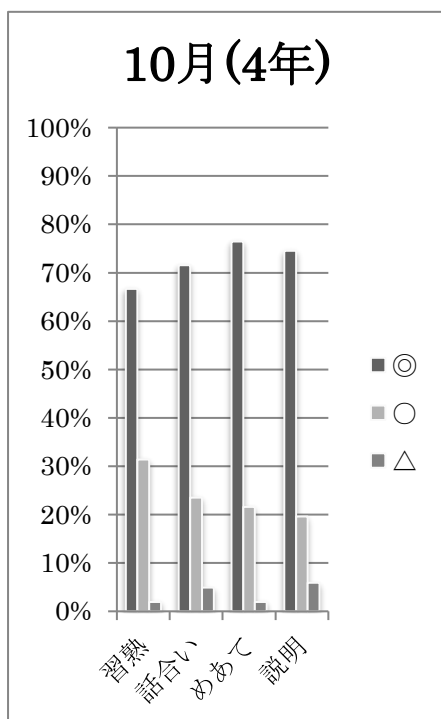
【2年】



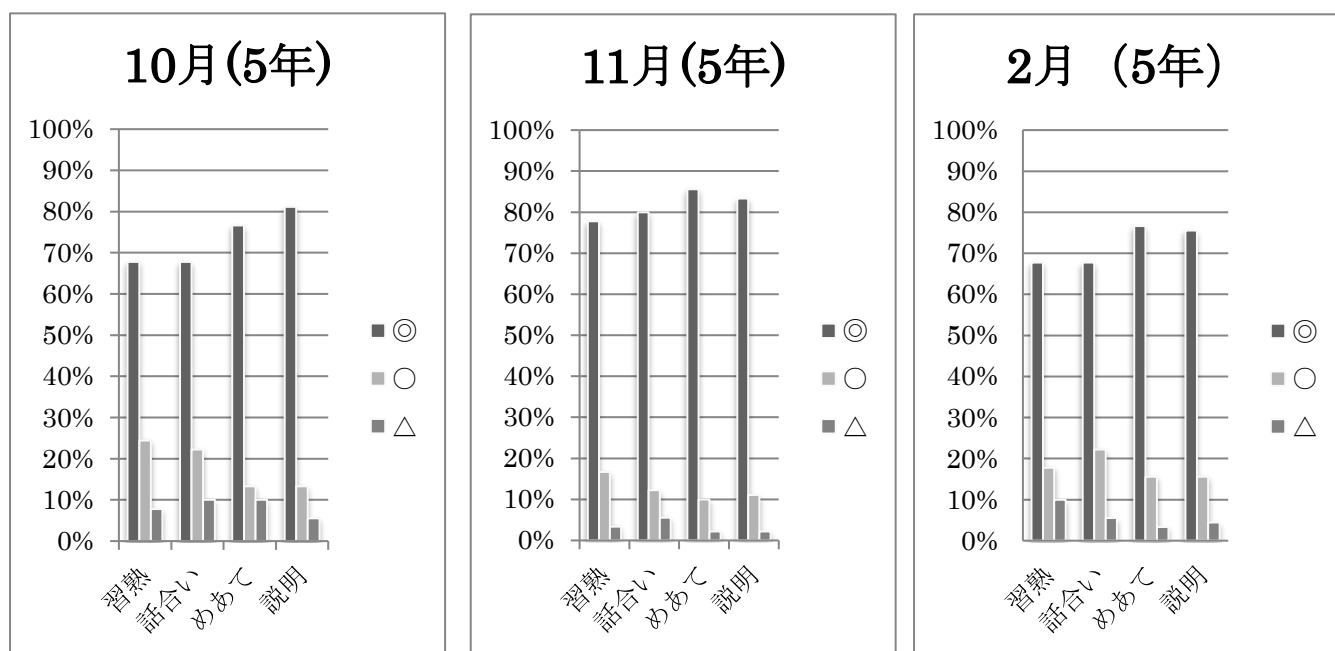
【3年】※少人数教室を含む



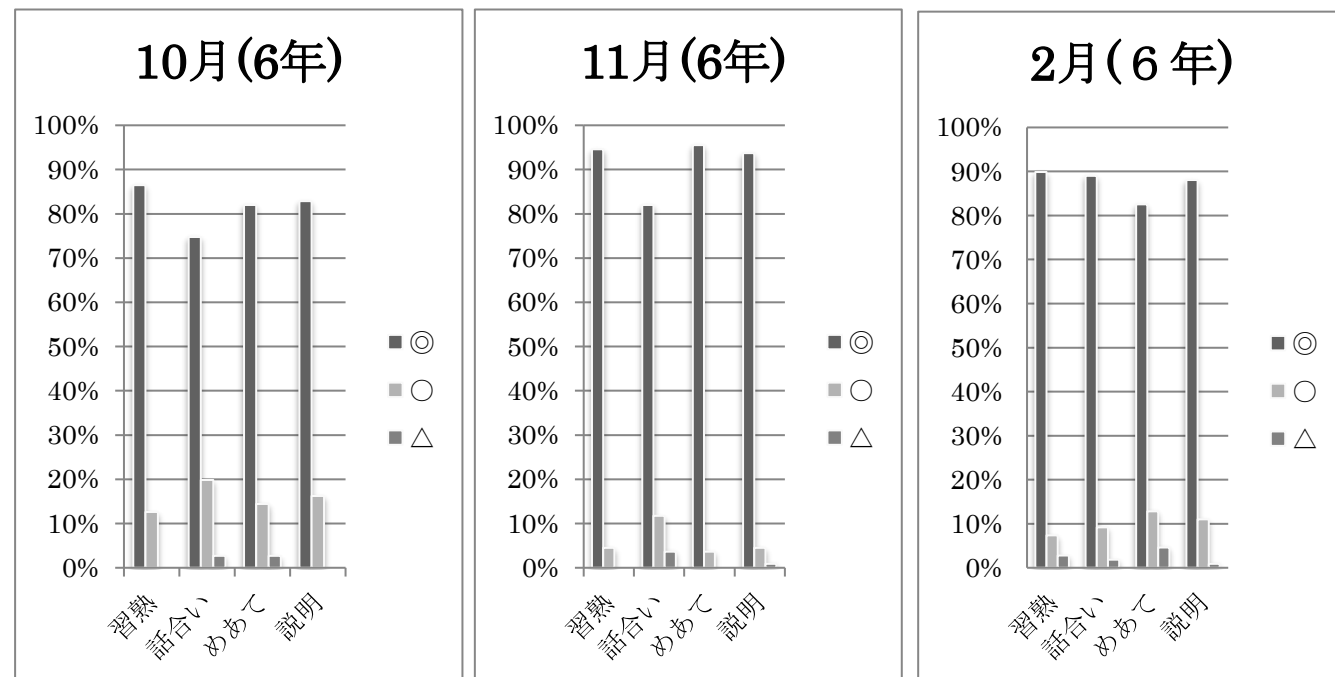
【4年】



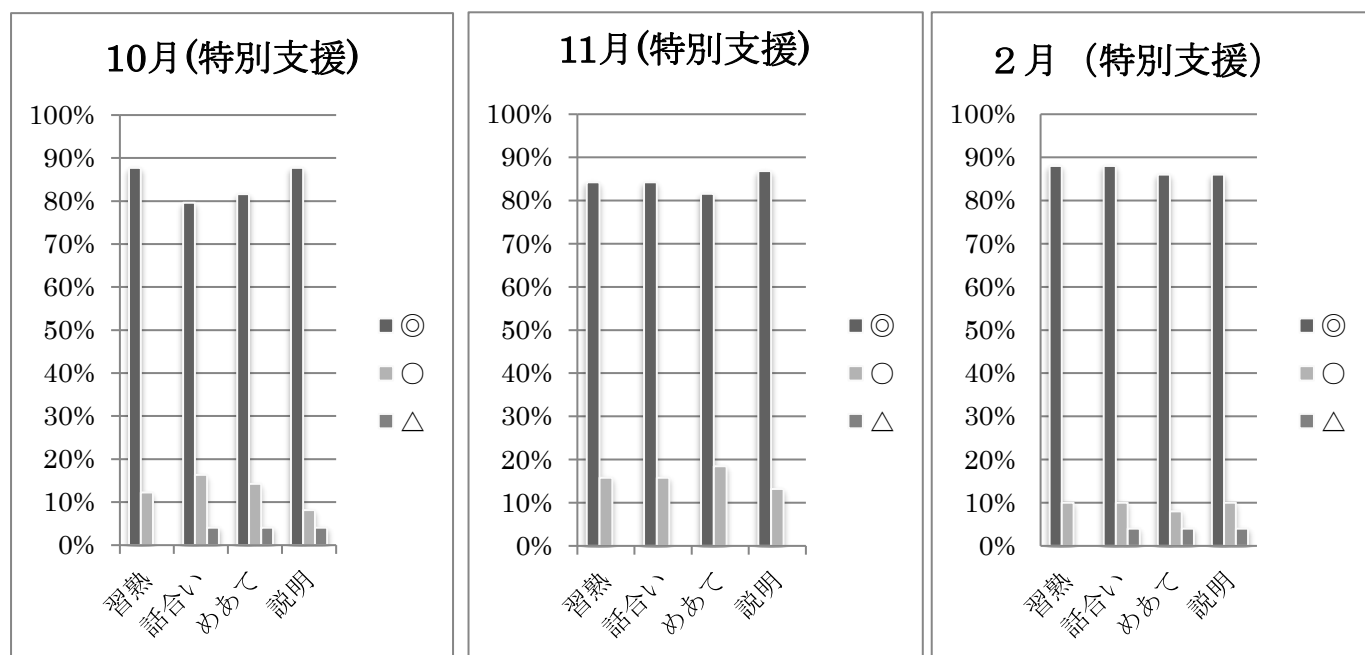
【5年】



【6年】



【特別支援】



【考察】

- 全体を見ると、それぞれの項目で○以上をつけた児童が 9 割を超えている。また、確かめの問題ができたという実感、めあての解決、教師の説明の分かりやすさについては、◎をつけた児童が 8 割を超えている。概ね 4 つのチェックポイント（教師の授業改善ポイント）は達成できているといえる。
- 「主体的・対話的な学び」につながる話合いの項目については、◎をつけた児童が 8 割を下回っている。個人思考の段階でつまづいている児童もいれば、全体での話合いに主体的に参加できていない児童がいるのではないかと推察する。個人思考を充実させるためにレディネスをそろえたり、誰もが意見を出し合えるような話合いの場を工夫したりすることが必要である。

二 月 七 日 (金)	○ 確かめの問題を解くことができましたか。	◎ ○ △
	○ 自分で考えたり、友達との話合いに参加したりすることができましたか。	◎ ◎ △
	○ 学習のめあてを解決することができましたか。	◎ ○ △
	○ 先生の説明はよく分かりましたか。	◎ ○ △
	【振り返りコメント】(授業で分かったこと、新しく気付いたり考えたりしたこと) $\frac{1}{2}$ と同じ分数や、数はちがって意味が同じ 分数があることを知りました。	

2 月 7 日 (金)	○ 確かめの問題を解くことができましたか。	◎ ○ △
	○ 自分で考えたり、友達との話合いに参加したりすることができましたか。	◎ ○ △
	○ 学習のめあてを解決することができましたか。	◎ ○ △
	○ 先生の説明はよく分かりましたか。	◎ ○ △
	【振り返りコメント】(授業で分かったこと、新しく気付いたり考えたりしたこと) すうじせんを使ってベトリだった。	

【児童の振り返りカード（4年生）】

3 研究の成果と課題

(1) 成果

- メンター別研修を取り入れたことにより、全員授業を計画的に進めることができた。また、授業実践をする際には、「事前研究→研究授業→事後研究」というサイクルがどの授業者にも設定してあったため、個人個人の授業改善が図られた。
- 初期研修とメンター別研修を関連させたことで、初任者が様々な立場の教員と関わることになり、お互いに授業力向上に努めることができた。
- 構想シートの活用により、授業の中で、めあてとまとめの一貫性を図ることができた。
- 振り返りシートの活用により、授業者、参観者ともに同じ視点で授業を振り返ることができた。また、「主体的・対話的な学び」が実現できるように計画した手立てが有効であったかどうかとも記述してあるため、メンターチーム内での話し合いが焦点化され、具体的な授業改善につながった。
- 授業の中に取り入れた協働学習の場でタブレットを活用すると、どの児童も意欲的に参加することができた。タブレットを使って意見交換をするスキルを身に付けることができた。
- タブレットを使う研究授業を計画したため、教師自身の ICT 機器を活用した授業力が向上した。
- 授業評価では、教師自身が自分の授業を振り返るよい機会になり、次時への学習の課題を明確にすることができ、授業改善につなげることができた。
- 児童による授業評価では、回を重ねるごとにコメント欄の記述が具体的になっていった。児童が、その授業の中で何を身に付けたのかをしっかりとらせることができた。

(2) 研究の課題

- メンターチームの人数が少人数であったため、意見を出しやすいという半面、各メンター間の情報のやり取りが十分にできないということも課題として残った。各メンター間をつなぐ研修の時間設定が必要であった。
- 対話的な学びを深めるための方策としてあげた ICT 機器活用の工夫については、教師も児童も、学級、学年ごとに取組の差が出てしまっている。継続して、授業の中での活用に取り組む必要がある。
- 主体的な学びを深めるための方策として、授業の導入段階における「課題設定」と「見通し」の工夫をあげたが、まだまだ充実させていく必要がある。ICT 機器活用だけでなく、授業をする際に必要な基本的な取組をもう一度見直し、授業改善につなげていくことが重要である。

参 考 文 献

総合中等研究所 「小学校新学習指導要領改訂の要点」 (2017)
田村学 「深い学び」 (2018)

文溪堂
東洋館出版社